

2月6日(火)6・7校時に2学年の学術研究SAB課題研究口頭発表会がありました。71回生は今回が最後の発表であったため、どの班も気を引き締めて臨んでいました。各ゼミの様子を紹介します。

●国語ゼミ

発表時間 7～9分、質疑応答 1～3分

国語ゼミの発表でスライドを用いるのは、今回が初めてであったため、スライドを切り替えるタイミングのミスなどはあったが、スライド自体はどの班も見やすいものであった。また発表内容に関してはすべての班が聴衆を納得させられる結論を提示していたように思える。これまでの中間発表では論理的ではない発表もあったが、今回はすべての班が仮説から結論までを論理的につなげていた。先生方からは、学術研究で成長した点を今後に活かしてほしい、という言葉を受けた。

●家庭ゼミ

発表時間 7～8分、質疑応答 2～3分 ※音楽ゼミと合同

今回の発表は一年間の研究の集大成となるものであった。それぞれの班で、前回のポスター発表では伝えきれなかった細かい部分まで、伝えることができたように思える。また、原稿を見て話す人は減ったが、その分、スライドを見て話す人が増え、一層聞き手に声が伝わりづらくなったことがより残念だった。

研究内容は、前回よりも発展した班も、そうでない班もあったが、いずれも、一番伝えたいことが、少しわかりにくかった。

また、担当者からは、研究の“サイエンス”的な切り口が全体的に足りないという言葉があった。また、発表に関しては、聞き手がどの程度専門的な言葉を理解しているのかということを考え、説明などより多く入れた方がよいということがあった。今後、研究等を行う際に、そのようなことを踏まえて行いたい。



●音楽ゼミ

発表時間 7～8分、質疑応答 2～3分 ※家庭ゼミと合同

今までと同じく音楽ゼミ4班、家庭科ゼミ1班合同での発表会でした。スライドを用いた発表は初めてでしたが、各班ポスターをスライドに変えただけではない、見やすく伝わりやすくという工夫が感じられました。一部の班では口頭で発表している内容とスライドの内容が一致していないとの指摘もあったので事前の打合せなど、もう少し努力の余地はあったかもしれません。先生方の講評でも、前回の発表会までの指摘から改善は感じられるが、やはりもう少し内容を深める余地があったのではないかと、ということでした。また、これから研究が本格化する一年生には、今回の発表で良いと思った点、足りないと思った点も参考にして、SSHらしく、科学的な切り口と根拠から研究を深めてほしいとのことでした。2年生の発表に足りない点はありましたが、音楽ゼミらしく各班の個性が出た、また今までのまとめと言える、最も充実した発表となっていました。

●英語ゼミ

発表時間 8～10分、質疑応答 1～2分

発表自体回数を重ねていることもあり、落ち着いて発表できていたように見えた。前回までの発表で指摘されたところを調べ直しスライドに組み込んだ班もあり、より内容に説得力が増した内容になっていた。質疑応答は71回生のみならず72回生も英語で行おうとする試みがみられ、内容もレベルの高いものとなってい

た。この発表を受けて、スライドの文字の大きさや足りない部分、図形やイラストの重要性、発表原稿の英語の正確性など、詰めの甘い部分への指摘もあった。71回生は今回で発表が最後となる班がほとんどだが、学術研究発表会で発表する代表の班や、これから発表を控える72回生の課題となった。

●保体ゼミ

発表時間 8分～10分、質疑応答 2分～4分

今回の発表は一年生と先生が見学していて皆いつもより緊張しているように見えた。二年生だけの場合よりも質問が多く飛び交い、発表自体だけでなく質疑の時間においても積極的であった。三回目の発表であったが、説明が足りない、グラフが見にくいなどの指摘もあり、まだ改善の余地があった。秋田で開催されたサイエンスコミュニティ研究発表会で生徒審査賞を取った4班をはじめとした充実した発表をした班は質問があまりなく、発表の準備をしっかりとしていたことが分かった。担当の先生の講評は、このゼミが文系の研究にも理系の研究にもつながるといのが記憶に残っている。大学でどの研究に属するにしてもこのゼミでの成果は生かせるということだ。

●公民ゼミ

発表時間 ～10分、質疑応答 ～5分

どの班も前回の発表からの反省を生かし、さらに練られたものとなっていた。そのせいもあってか、1、2年ともに質問は少なかった。ゼミ長の呼びかけで後半は1年生からの質問があったが、今後は自発的に質問ができるように様々な視点で発表を聴くことが大切である。また、会自体は何事も問題なく、ゼミ員の協力でスムーズに終わることが出来た。



●地歴ゼミ

発表時間 7～8分、質疑応答 1～2分

- ・全班に共通して発表内容を分かりやすく伝えようとする態度が前回発表よりも明確に見られた
- ・集大成となる発表であったこともあり、時間の超過がほとんどなく、内容もまとまっていた。
- ・発表の姿勢や文章を読み上げるスピードなど、各班ともこの一年で培った経験を最大限に活かした発表会だったと思う。



●物理ゼミ

発表時間 8～10分、質疑時間 0～5分

全ての班の発表が素晴らしいものだった。特に良くなった点は原稿を見る人が減ったということだ。前回のゼミ内の発表会で担当の先生から指摘された、聴衆を見て話すということをしっかり行っていた。そのため、声も通りやすく、スムーズに内容が入ってきた。今回の発表では2年生に負けじと1年生も質問を多くしていた。前回は、発表内容がより専門的なだけに、疑問点すら分かっていないという状況の人もいたのだが、今回は2年生もスライドを見やすく、分かりやすく作ったことによって、1年生もしっかり理解していた。今回の発表を聞いて、1年生はこれからの研究の流れを組み立て、悔いのないようにSSH活動を楽しんでほしい。

●化学ゼミ

発表時間 約15分

- ・2年生は最後の発表でどの班も前回の発表から内容・発表態度ともに向上していた。また、質問に対する答えもより詳しくわかりやすいものとなっていた。
- ・1年生も熱心に発表を聞き、これからの研究の参考になるように2年生に活発に質問をしていた。
- ・どの班も研究の発展性が見込まれ、これから先行研究として役立ててもらいたい。



●生物ゼミ

発表時間 ～10分、質疑時間 ～5分

前回のゼミ内発表やポスター発表の反省をふまえ、スライドが見やすくなっていたり、声が大きくきこえやすくなっていたりと、改善が見られた班が多かった。ただし、前回同様、専門用語の説明が不十分で聴衆が理解できていないところも多く見受けられた。また、質疑応答も活発に行われ、楽しく理解を深めることが出来た。質問する人が大体決まっていたので、もっと多くの人が疑問を投げかけられれば、より良い発表になったと思う。72回生の皆には、私たちの反省点と先生方からのアドバイスを活かして、柔軟な考え方でよい発表をしてほしい。



●地学ゼミ

発表時間 5分、質疑応答10分

最初の方は質問が少なかったが次第に多くなっていった。モデル実験をしていたチームが多かったが、実際のスケールにするとどうなるかが曖昧であった。また、大きいものとか小さいものとか主観的な結果報告があったことはあまり良くないという指摘があった。今回は質問が多いのに、スピーディーに終わった。

1年生はしっかり2年生の発表をみて、次回につなげてほしい。

2年生の質問は少なかったが、時がたつにつれて質問が活発になっていった。次回1年生の発表をみて、2年生は質問をガンガンしてほしいと思います。

●災害研究ゼミ

発表時間：0～5分、質疑時間：0～10分

71回生は、一年間継続した研究の集大成を精一杯発表していた。どの班も最初のプレゼンのときよりも成長していて、素晴らしいものになっていた。また、質疑応答のクオリティも格段に向上していた。特にゼミ長の指摘が鋭く、研究の意義を考えさせられるようなものであった。72回生も、現時点で決定している研究の方針や行った予備実験の結果等を丁寧にまとめていた。まだまだ十分でない箇所も多数見受けられたが、71回生や先生方から受けた指摘をもとに、今後の活動で研究をより充実したものにしてほしい。71回生の2・3・4・5班は、3月3日に日本大学工学部で行われる土木学会技術研究発表会に向けて、また、ゼミ代表に選出された3班は若林区文化センターでの研究発表会に向けてそれぞれ頑張ってもらいたい。

●数学ゼミ

発表時間 10分～15分、質疑時間 5分～10分

最後の発表だけあって、どの班のパワーポイントも見やすく、聴衆に理解してもらおうという熱意は感じられた。

しかし、ほとんど質問がでなかったのは良くないように思われる。一度発表を聞いただけで誰もが完璧に理解できるはずはないと思うので、来週の1年生の発表ではもっと質問が出ることを期待する。



●情報ゼミ

発表時間 ～15分、質疑応答 ～5分

今回の発表は以前よりも72回生が積極的に発言をしてくれたため、質疑応答がよいものとなった。研究が完了していない班が多かったが、それぞれの班が72回生に対して研究をどうしたらいいかなどをコメントしていて良い傾向だと思った。前回の発表から進化している発表もあれば、退化している発表もあった。

72回生には、内容のある研究をして学術研究を楽しんでほしいです。

【編集後記】

この口頭発表会で、ほとんどの71回生は学術研究としての研究活動は終わったことでしょう。お疲れ様でした。明日は各ゼミの代表者の発表があります。少しでも自分を成長させる糧とできるよう、最後まで気を抜かずに発表会に臨みましょう。

【真剣に発表を聴く一高生】

